

⑩ データを利用した企画立案（EBPM）：データ分析基盤の構築【埼玉県さいたま市】

市が保持する住民情報や業務に関する情報を格納し、職員が分析観点を設定して主体的にデータ分析を行えるような分析基盤を構築する取組

データを利用した企画立案

住民情報や業務に関する情報を自在に分析！
 分析したデータはレポートとして全庁に公開し、他課での分析の参考資料として活用してもらうことで、市全体の更なるデータ利活用を推進！

取組み事例

データ分析基盤の構築 <埼玉県さいたま市（135.8万人）>

取組概要

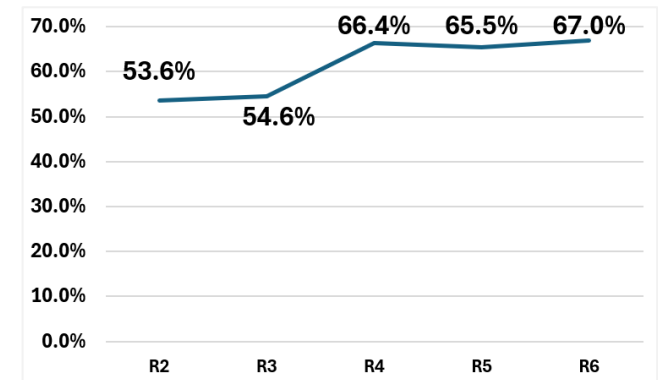
- ✓ データ利活用の中核を担う仕組みとして、「さいたまシティスタット基盤」を構築した。
- ✓ 基盤には人口や年齢等の基本的な情報に加えて、市民・職員向けのアンケート結果や救急搬送データ等、各課の業務に関わる様々な情報が蓄積されており、年齢別や町字別等、各自で分析観点を設定し、自由に分析を行うことができる。
- ✓ 各職員は業務で使用しているPC端末から基盤にアクセスして分析を行うことが可能で、分析結果をレポートとして全庁で共有することができる。

効果

- ✓ 令和7年12月末時点までで、329個の分析画面がレポートとして共有されており、データを活用した企画立案・効果検証等の取組が各課で進んでいる。
- ✓ 一例として、救急出動データを時間帯別に可視化した結果、救急要請が多い時間帯に多くの救急車を運用できるよう、令和7年度から「日勤救急隊」の運用を開始した。
- ✓ 令和6年度に職員を対象に実施した「デジタル技術及びデータ利活用に関する職員アンケート」では「客観的なデータの利活用ができていると思う割合」が67.0%に増加しており、データ利活用に対する意識改革も着実に進んできている。



客観的なデータの利活用ができていると思う割合



⑩ データを利用した企画立案（EBPM）：データ分析基盤の構築【埼玉県さいたま市】

改革のポイント

■ 基盤作成・基盤保守にあたっての工夫

- ✓ 分析のもとになる住民情報や基礎データのアップロード、権限設定については、トラブル防止の観点からデータ・統計担当のみがアップロード可能になっている。なお、アップロードにあたっては個人が特定できないような形で加工してアップロードを行っている。
- ✓ 情報の機密性によって格納先を分けられるようになっている。全庁公開に適さない機微な情報については、専用のフォルダを設けてアクセスを制限しつつ、そうでない情報は全庁に公開して、他課の分析結果を自由に活用できるようにしている。

■ 各課でデータ利活用の機運を高めるための工夫

- ✓ 庁内のポータルサイトの掲示板で、庁内のデータ分析の好事例を発信している。特に改革直後は分析事例が少ないため、既にデータを活用できている部署に声を掛けて、発信する事例を収集した。
- ✓ 各課の管理職が参加する会議にてデータ利活用の取組の現状等について積極的に発信し、トップダウン的に各課でのデータ利活用の推進を図っている。

■ 各課で分析基盤を活用して業務を行ってもらうための工夫

- ✓ 各職員に対して定期的に研修を行い、基盤へのアクセスからレポートの作成・共有まで、分析における操作方法の基本を周知している。研修後にはアンケート調査を実施して各課の課題や必要としている情報を収集し、随時研修内容をアップデートすることで、更なるデータ利活用を促進している。
- ✓ 有効な分析観点がわからない所管課に対しては、データ・統計担当の職員が個別に分析業務の支援を行っている。支援にあたっては、分析作業自体を代行するのではなく、各課が実施する分析に対して分析観点や分析時の留意点等の助言を行うに留めることで、各所管課が自らデータ利活用を進めていけるような体制を構築している。

 **イニシャルコスト※税込** **27,500千円**

(内訳) ・基盤構築（初年度運用保守費用含む） 27,500千円

 **ランニングコスト（1年あたり）※税込** **15,983千円**

(内訳) ハードウェア：3,301千円
ソフトウェア：8,062千円
運用保守：4,620千円

 **スケジュール** **体制構築から取組までの期間：2年1か月**

R1.4 分析基盤の仕様検討
R1.10 試験導入
R2.4 調達
R2.8 環境構築
R2.11 全庁導入

 **サービス提供事業者等**

事業者名：株式会社エーティーエルシステムズ
サービス名：行政情報分析基盤 for セルフBI
運用形態：オンプレミス